

岩手県感染症週報

平成30年第33週(8月13日～8月19日)

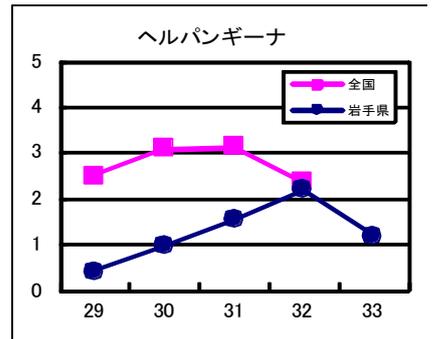
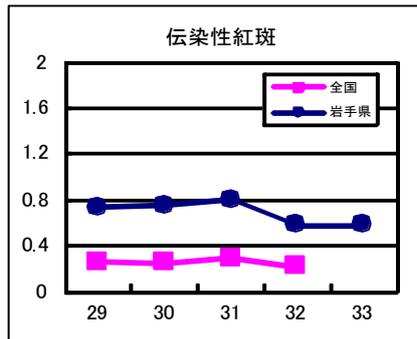
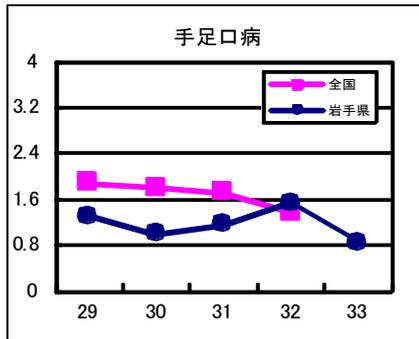
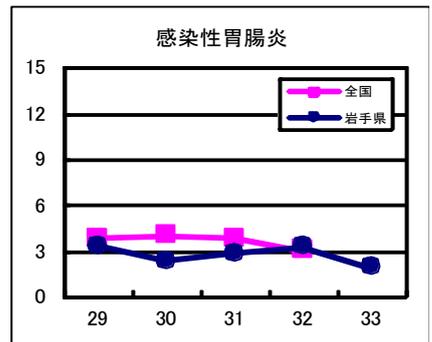
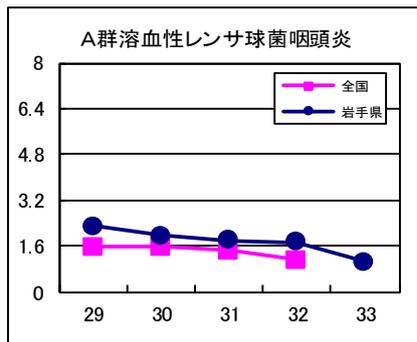
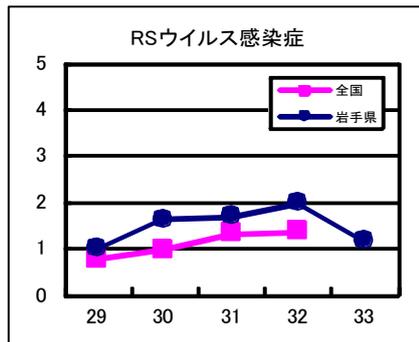
岩手県感染症情報センター

第33週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・結核の報告が4例ありました。そのうち1例は潜在性結核感染症でした。
- 3 類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症は、O26などの報告が7例ありました。主な症状は腹痛や下痢、血便で、腎不全や脳症など重篤な合併症を起こす場合もあります。少ない菌量で感染するので、食中毒予防3原則（食中毒菌をつけない、ふやさない、やっつける）の徹底と、石けんと流水による手洗いでヒトからヒトへの二次感染を防ぐことが重要です。
- 4 類感染症 ・レジオネラ症の報告が、久慈地区から1例ありました。患者は90歳代の女性です。
- 5 類感染症（全数把握対象疾患）
 - ・梅毒の報告が2例ありました。これで今年23例です。
 - ・バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告が、盛岡市から1例ありました。患者は60歳代の男性です。
- 5 類感染症（定点把握対象疾患）
 - ・ヘルパンギーナは減少しましたが、岩手県では例年9月上旬まで報告数の多い状況が続くので、引き続き注意が必要です。予防には、患者との濃厚接触を避け、手洗いやうがいを十分に行うことが重要です。
 - ・RSウイルス感染症は、中部、奥州及び二戸地区で定点あたり患者数2人を超えています。乳幼児は細気管支炎など重症化しやすいので注意が必要です。患者の咳やくしゃみ、ウイルスが付着した手指などから感染するので、予防には、咳エチケットや手洗いが重要です。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。

(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		29	30	31	32	33		
インフルエンザ	岩手県	0.02	0.02	0	0	0	→	
	全国	0.06	0.05	0.05	0.04			
RSウイルス感染症	岩手県	1	1.63	1.7	1.98	1.15	↘	☆☆
	全国	0.76	0.97	1.33	1.37			
咽頭結膜熱	岩手県	0.43	0.3	0.53	0.38	0.13	→	☆
	全国	0.55	0.55	0.51	0.39			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.28	1.95	1.8	1.73	1.03	→	☆
	全国	1.57	1.57	1.44	1.1			
感染性胃腸炎	岩手県	3.4	2.4	2.85	3.28	1.93	↘	☆
	全国	3.84	4.03	3.86	3.05			
水痘	岩手県	0.2	0.08	0.2	0.28	0.15	→	☆
	全国	0.28	0.25	0.23	0.2			
手足口病	岩手県	1.3	1	1.15	1.53	0.85	↘	☆
	全国	1.87	1.8	1.71	1.37			
伝染性紅斑	岩手県	0.73	0.75	0.8	0.58	0.58	→	☆
	全国	0.26	0.25	0.29	0.22			
突発性発疹	岩手県	0.45	0.5	0.43	0.35	0.25	→	☆
	全国	0.47	0.48	0.48	0.39			
ヘルパンギーナ	岩手県	0.4	0.95	1.53	2.18	1.18	↘	☆
	全国	2.49	3.09	3.12	2.35			
流行性耳下腺炎	岩手県	0.15	0.18	0.13	0.13	0	→	
	全国	0.17	0.18	0.16	0.12			
急性出血性結膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0			
流行性角結膜炎	岩手県	0.36	0.29	0.93	0.36	0.29	→	☆
	全国	0.81	0.95	1.09	0.81			
細菌性髄膜炎	岩手県	0	0.05	0	0	0	→	
	全国	0.01	0.03	0.01	0.02			
無菌性髄膜炎	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0.06	0.04	0.07	0.04			
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.16	0.26	0.11	0.32	0.11	→	☆
	全国	0.17	0.23	0.24	0.23			
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0	0	0	0	0	→	
	全国	0	0	0	0			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.05	0	0.05	0	0	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.00			
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	0	1	0	0	0		
	全国	6	14	8	4			

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		29	30	31	32	33		32	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	0 (0)	4 (2)	3 (3)	1 (1)	4 (1)	120 (50)	330	13128
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	100
	腸管出血性大腸菌感染症	3	8	2	6	7	42	229	1936
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	21
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	13
四類 感染症	E型肝炎	1	0	2	0	0	3	5	271
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	2	23	641
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	7
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	5
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	2	3
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	53
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	0	1	0	94
	デング熱	0	0	0	0	0	0	5	84
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	8	125
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	2	
マラリア	0	0	0	0	0	0	2	28	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	6	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2	
レジオネラ症	1	0	0	0	1	7	25	1148	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	3	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 29	30	31	32	33	累計	32	累計
五類 感染 症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	7	7	507
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	3	134
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	5	25	1106
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	19
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	2	11	457
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	11
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	2	3	132
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	1	0	0	6	8	451
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	24	794
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	47
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	5	304
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	25
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	1	0	0	13	26	2212
	水痘 (入院例)	1	0	1	0	0	4	6	262
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	1	0	4	0	2	23	89	4116
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	2	110
	破傷風	0	0	0	0	0	1	4	70
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1	1	2	42
百日咳	0	0	1	0	0	29	241	4564	
風しん	0	0	0	0	0	0	39	139	
麻しん	0	0	0	0	0	0	0	200	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	13	

今注目の感染症

ヘルパンギーナ

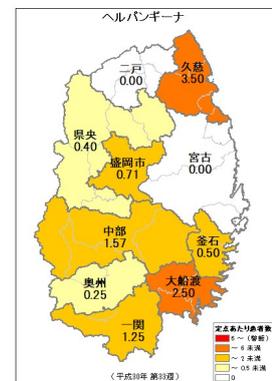
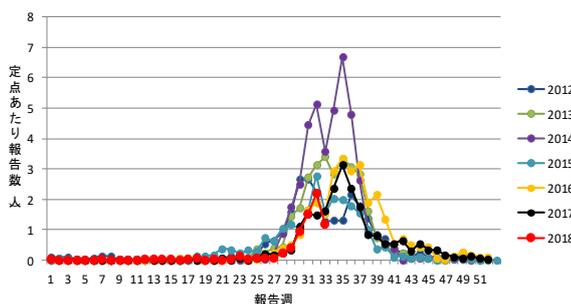
ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する急性のウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的な疾患です。潜伏期間は2～4日で、主な症状は38℃以上の突然の発熱とどの痛み、口内に現れる小さな水疱性の発疹です。水疱はやがて破れて潰瘍になり痛みが伴います。痛みのため食欲が落ち、乳児の場合はミルクを飲むのを嫌がり、脱水症状を起こしやすくなります。まれに重症化し、髄膜炎や急性心筋炎などを併発する場合がありますので、発熱以外に頭痛や嘔吐、心不全の兆候が現れていないか注意が必要です。

第33週の定点あたり患者数は前週より減少し、1.18人となりましたが、岩手県では例年9月上旬頃まで報告数が多い状況が続くので、今後の発生動向にも注意が必要です。

感染経路は、患者の咳やくしゃみによる飛沫感染や、水疱内のウイルスに触れることで感染します。また、ウイルスは便の中にも排泄されるため、トイレに行ったときやおむつを交換する際に接触感染することもあります。予防には、患者との濃厚接触を避け、手洗いやうがいを十分に行うことが重要です。

参考 国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

ヘルパンギーナ 岩手県
2012-2018年第33週



岩手県 第33週

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症 (つづき)

つつが虫病

つつが虫病は、ツツガムシ病リケッチアに感染したツツガムシ (ダニの一種) の幼虫の刺咬により、病原体が体内に侵入しておこる感染症です (図1)。

潜伏期間は5日から15日間で、症状は、発熱、発疹、頭痛が主症状で、皮膚には特徴的なダニの刺し口がみられます (表1)。つつが虫病は、治療が遅れることで重症となることがあるため、野外活動の後、疑わしい症状が出た場合には、早めに医療機関を受診し、適切な治療を受けましょう。野外で活動したこと、ダニに刺されたかもしれないことなどを医師に伝えることも大切です。

岩手県内での発生状況ですが、全県内に毎年発生し、春から夏と、秋から冬にかけての2つの発生のピークがみられます (図2)。ツツガムシの生息しているような場所 (野山や田畑、河川敷等) にはなるべく立ち入らないようにし、立ち入る場合には、長袖、長ズボンに足首を覆うことができる靴を履くなど、肌の露出の少ない、ダニの吸着を防ぐような服装をして、虫除け剤を適宜使用しましょう。野外での活動後は、上着や作業着を屋内に持ち込まないようにしましょう。また、ダニが衣類の隙間から入り込むことがあるので、帰宅後は速やかに入浴やシャワーなどで洗い流し、ダニがついていないか確認することも大切です。

参考 国立感染症研究所：ツツガムシ病とは
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>
 国立感染症研究所：リケッチアって知ってますか？
<http://www0.nih.go.jp/niid/Rickettsia/>

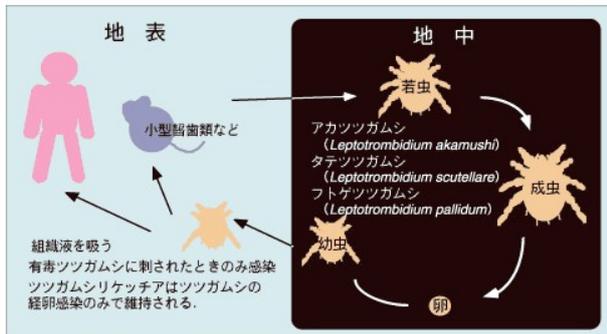


図1. ツツガムシの生活環
 ー国立感染症研究所HPよりー

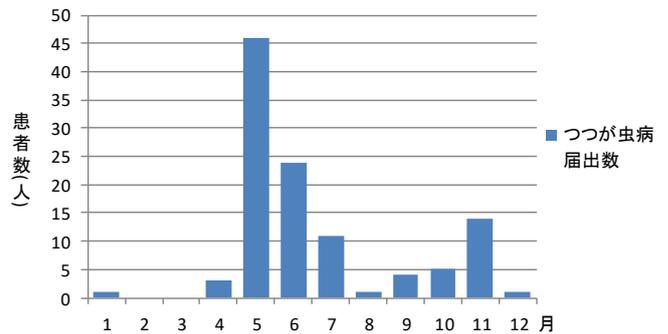


図2. 岩手県における月別つつが虫病届出数 (1999-2018年累計)

表1 ダニを媒介して起こる代表的な感染症

疾患名	媒介するダニ	病原体	症状	潜伏期間	発生状況 (2018年第32週)	
					全国	岩手県
重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	マダニ (フトゲチマダニ、タカサゴキラマダニ、キチマダニ等)	SFTS virus (Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome virus)	発熱、消化器症状、頭痛、筋肉痛、リンパ節腫脹	6日～14日	53	0
つつが虫病	ツツガムシ (アカツツガムシ、タテツツガムシ、フトゲツツガムシ)	Orientia tsutsugamushi	発熱、発疹、全身倦怠感、頭痛、刺し口、食欲不振、悪寒、リンパ節腫脹	5日～15日	94	1
日本紅斑熱	マダニ (キチマダニ、フトゲチマダニ、ヤマトマダニ等)	Rickettsia japonica	頭痛、発熱、全身倦怠感、刺し口、発疹	2日～8日	125	0

今注目の感染症 (つづき)

腸管出血性大腸菌感染症

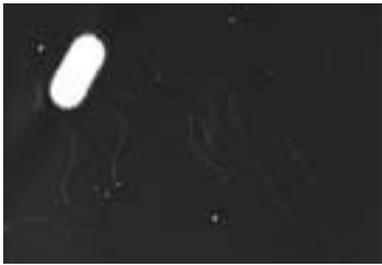
腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素 (Vero toxin = VT、またはShiga toxin =Stxとも呼ばれる) を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、著しい血便と様々です。さらに、溶血性尿毒症症候群による腎不全や脳症などの重篤な合併症を引き起こす場合もあります。

岩手県では、2018年第33週までに、盛岡市から18例、奥州地区から9例、県央地区から8例、一関及び中部地区から各3例、釜石地区から1例、計42例の報告がありました。原因となった大腸菌は、O26が23例、O157が9例、O111が4例、O103が2例、O121が1例、O8が1例、O血清型不明が2例でした。年齢層別では、10～19歳が最も多く9例、次いで0～9歳が8例でした(図1)。

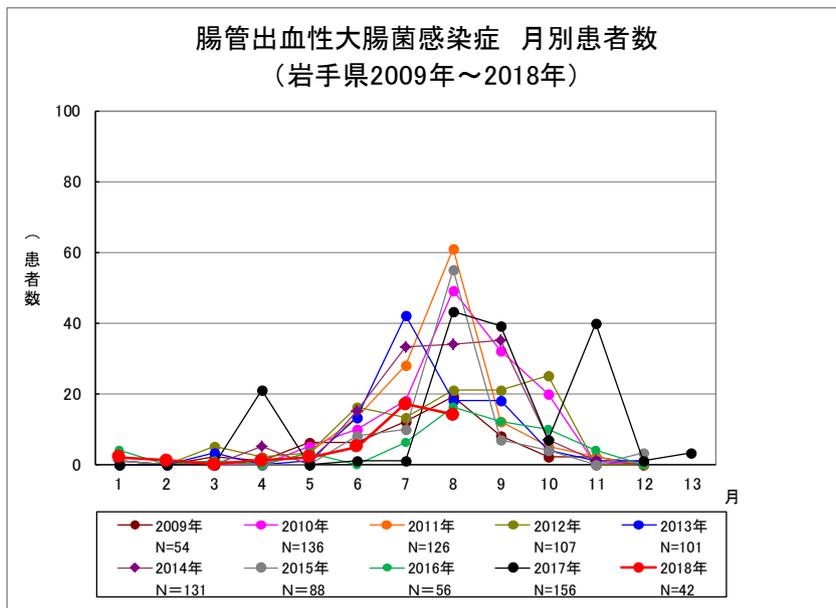
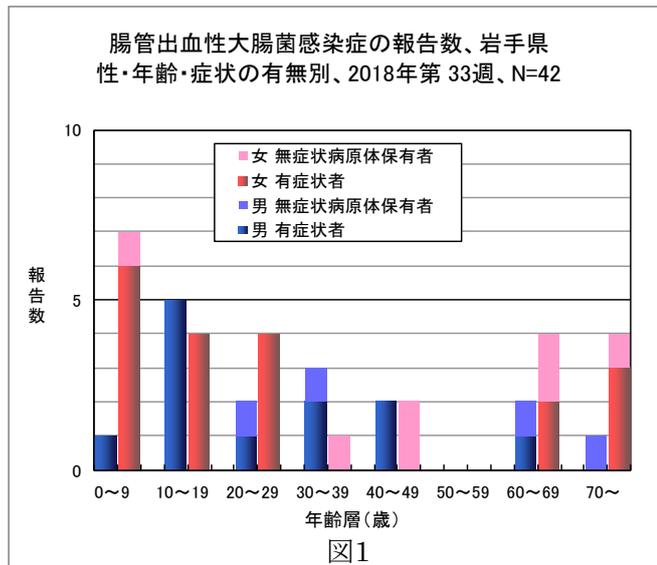
予防対策としては、食中毒予防の3原則 (食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける) を徹底し、生肉や加熱不十分な食肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、食事の前やトイレの後などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。

参考 国立感染症研究所

腸管出血性大腸菌感染症とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>



腸管出血性大腸菌O157:H7の電子顕微鏡写真(15,000倍)
-国立感染症研究所HPより-



病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

集団感染情報

- ・この週には集団感染情報はありません。

医療機関からの情報

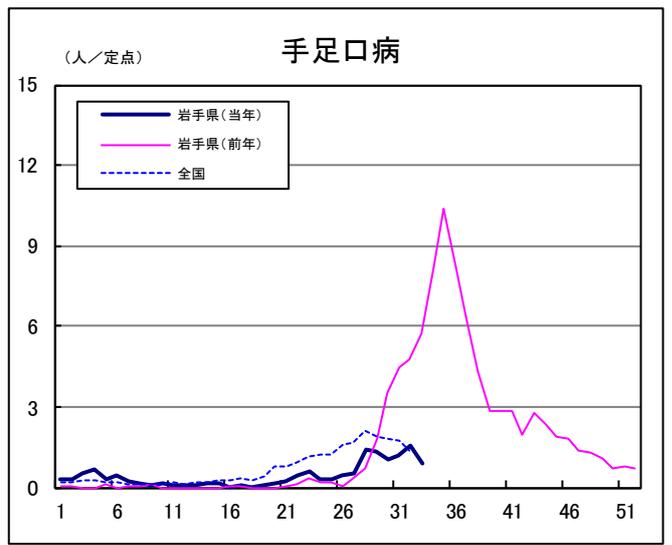
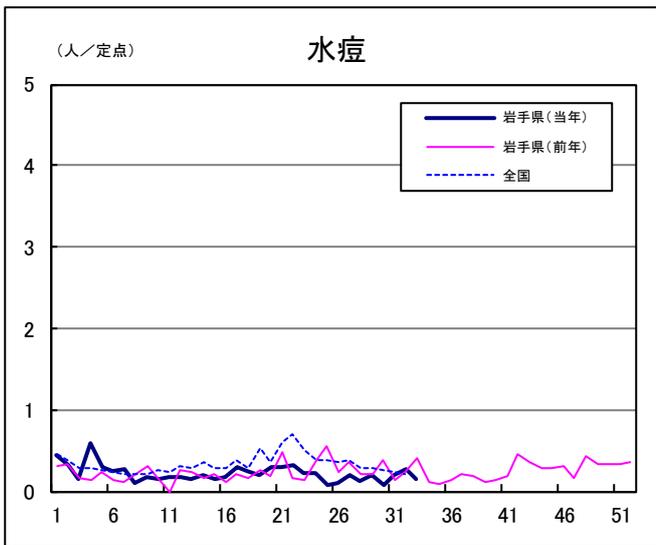
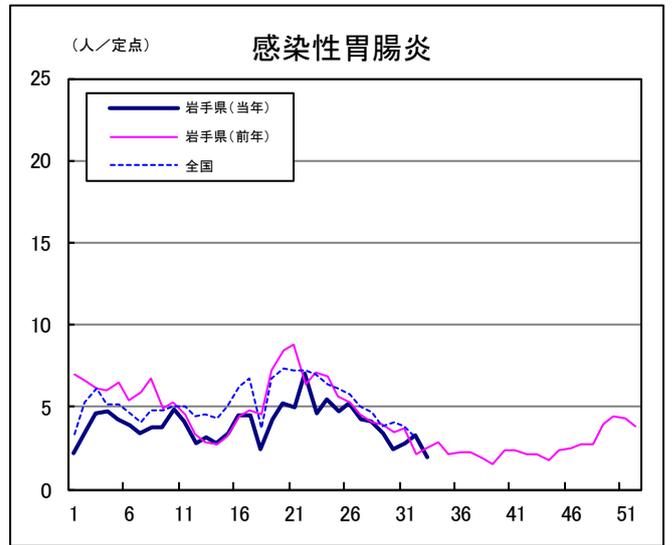
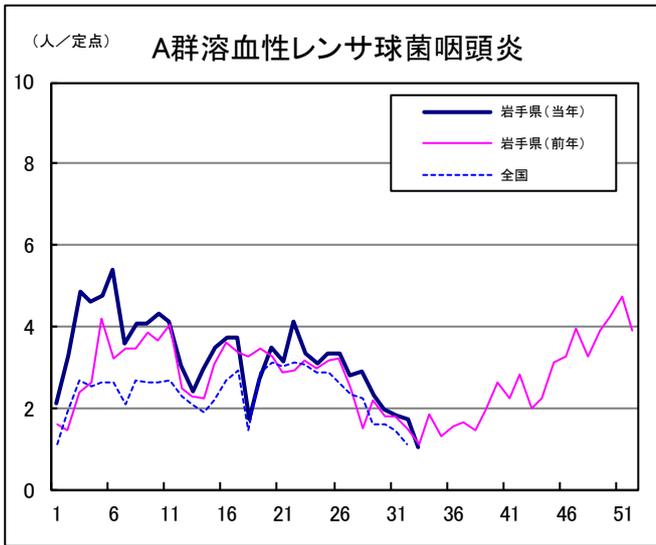
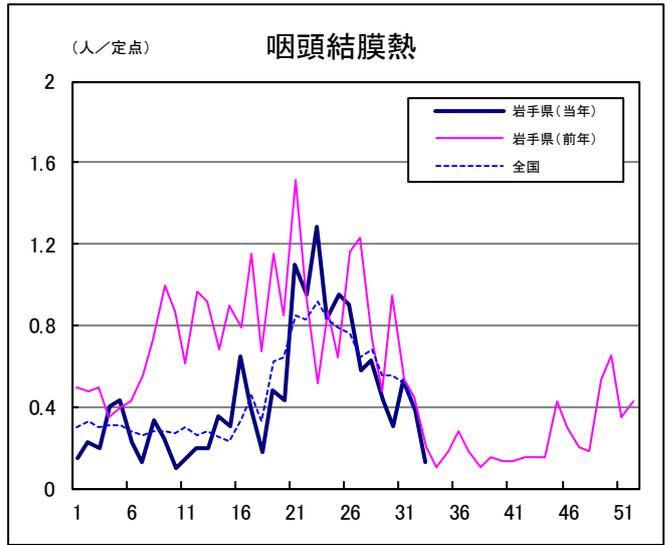
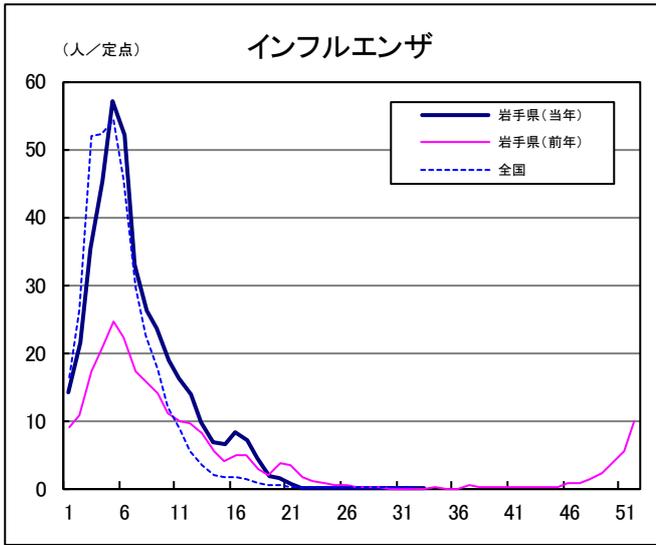
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

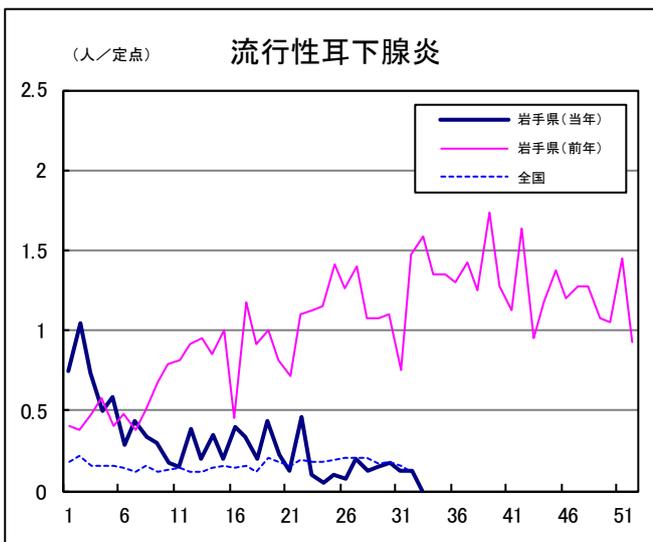
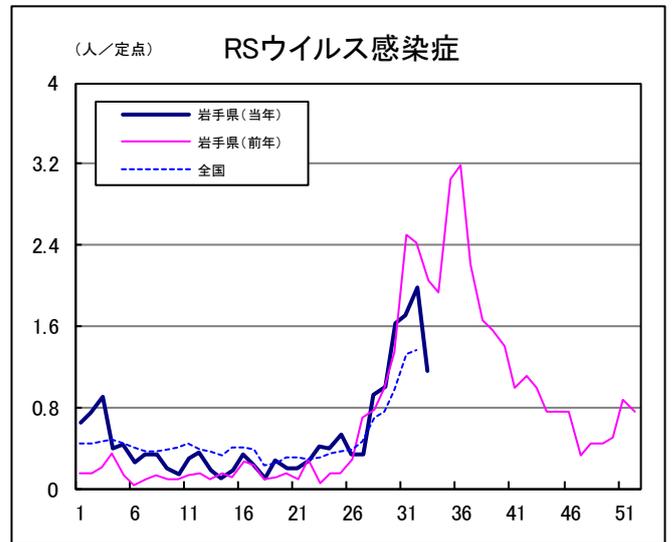
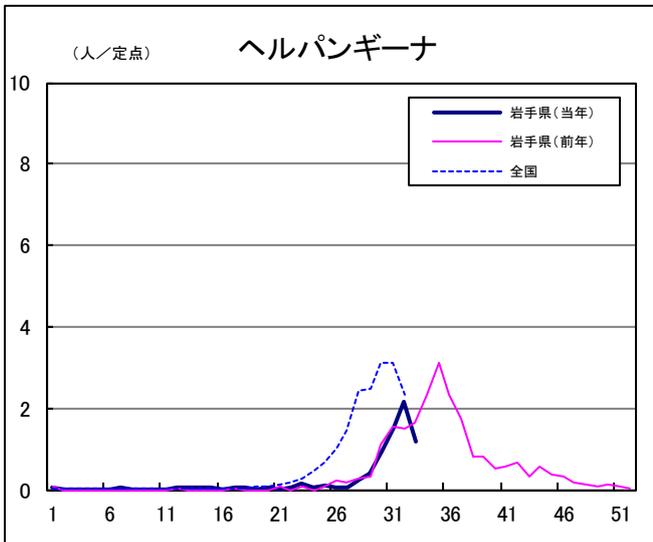
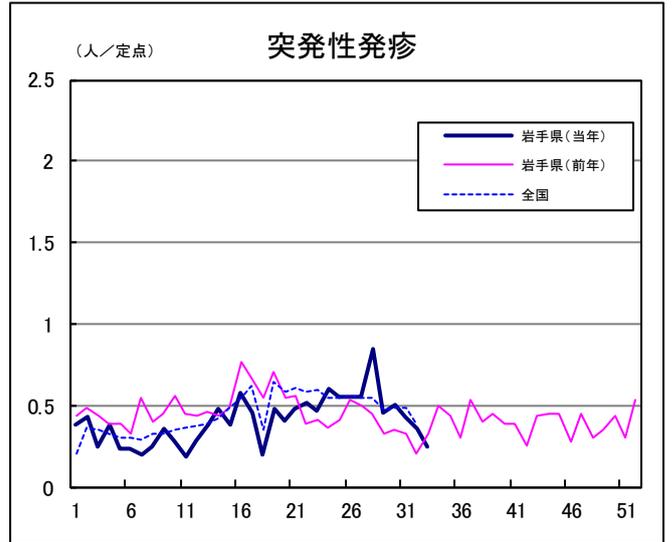
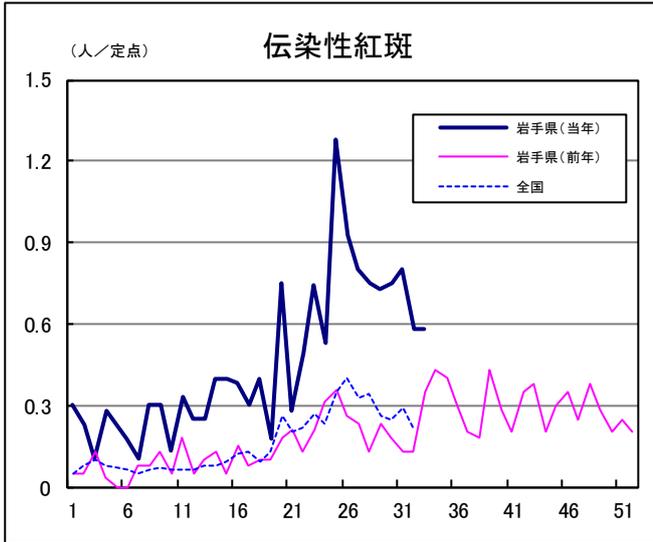
Q & A

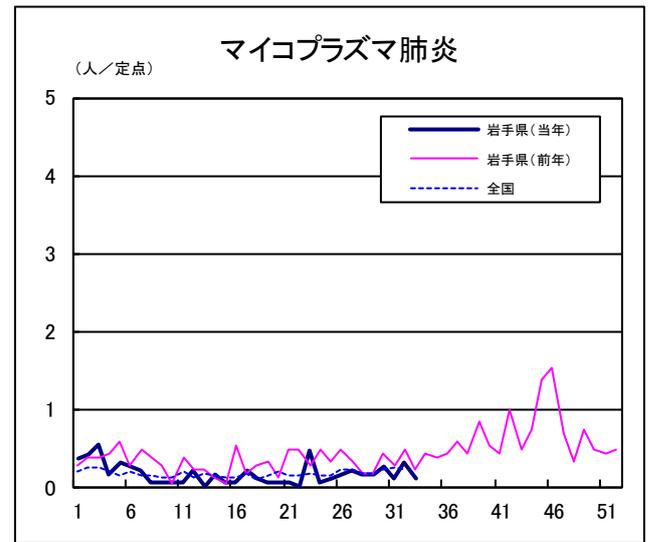
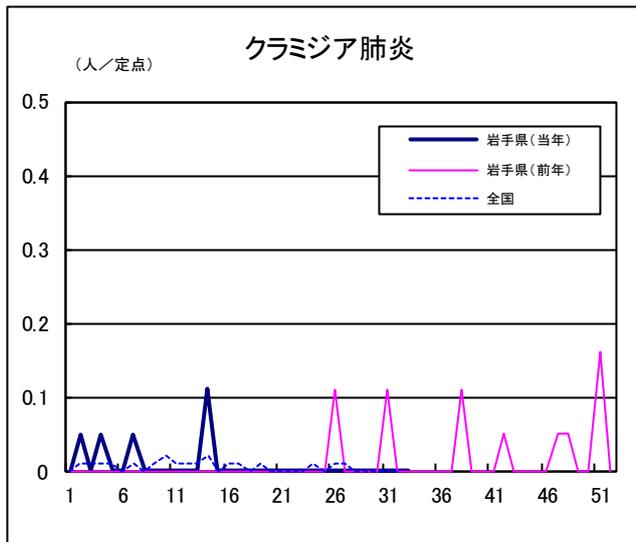
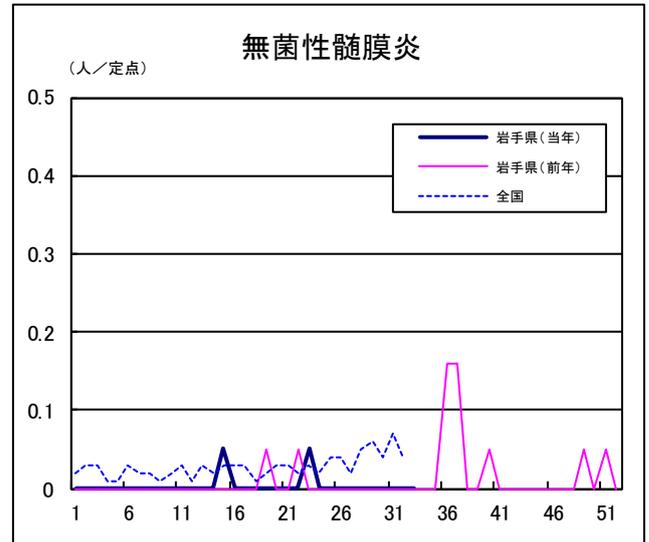
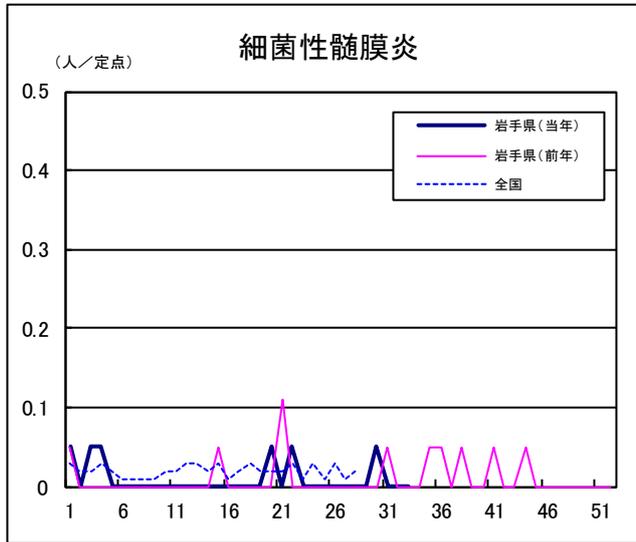
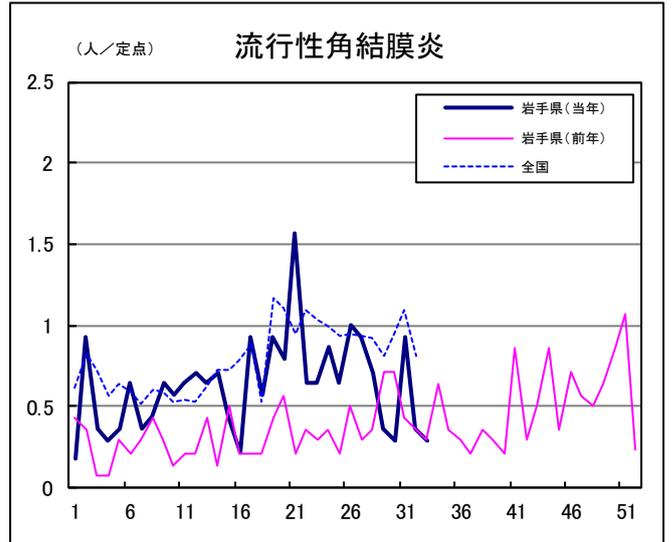
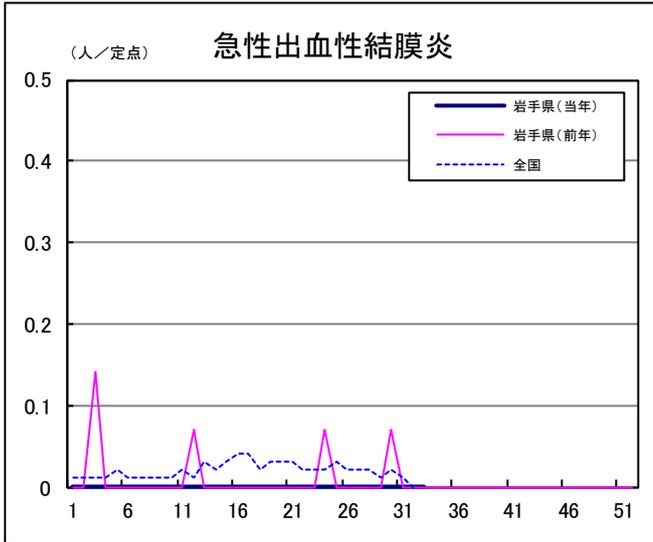
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科定 点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		11	7	3	5
県央		8	5	2	0
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 平成30年第33週 平成30年8月24日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<http://www.pref.iwate.jp/iryuu/kenkou/index.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>